

平成31年(2019年)3月 青果部 主要品目の市況

	種類	品名	市況の概要	2019年3月 数量 (トン)	2019年3月 平均単価 (円)	前年同月比 数量	前年同月比 平均単価
1	野菜	大根	神奈川県(三浦)産・千葉県(銚子)産中心の入荷でした。神奈川県産の出荷が終了し、入荷量はかなり減少しましたが、肥大が良好で太物傾向となったことから平均単価はかなり安く推移しました。	518	72	77%	60%
2		キャベツ	神奈川県(三浦)産・愛知県産中心の入荷でした。天候に恵まれ、前進出荷で推移し、入荷量は前年並みでした。生育が良く大玉傾向となったことから平均単価は大幅に安く推移しました。	1,029	65	99%	43%
3		きゅうり	群馬県産・埼玉県産・茨城県産中心に宮崎県産・千葉県産の入荷でした。中旬までの天候不良の影響により入荷量はかなり減少しました。平均単価はやや高く推移しました。	355	333	87%	108%
4		ほうれん草	茨城県産・群馬県産中心の入荷でした。茨城県産の生育が前進したため、月後半は数量減となり、入荷量はかなり減少しましたが、平均単価はやや安く推移しました。	107	387	75%	95%
5		馬鈴薯	北海道産・鹿児島県産中心の入荷でした。鹿児島県産は生育期間の気温が平年を上回って推移し、肥大が良好となり、大玉傾向で安定した入荷となり、入荷量はやや増加しました。平均単価はやや安く推移しました。	386	109	106%	94%
6	果実	伊予柑	生産量低下のため、他市場からの集荷を行い、入荷量はやや増加しました。平均単価は前年並みで推移しました。	77	247	108%	100%
7		ふじ	昨年の台風による現地在庫分の減少から入荷量はやや減少しました。同じく昨年の台風によるキズ果、スレ果の影響により、平均単価はかなり安く推移しました。	271	231	91%	68%
8		いちご	栃木県産・福岡県産中心の入荷でした。福岡県産の前進出荷と栃木県産の低温による生育不良の影響により、入荷量はやや減少しました。平均単価はやや高く推移しました。	194	1,394	94%	108%

【増減基準】

- ①並み、横ばい:(+-)0~2%
- ②やや増加(減少):(+-)3~10%
- ③増加(減少):(+-)11~20%
- ④かなり増加(減少):(+-)21~50%
- ⑤大幅に増加(減少):(+-)51%以上